

## 令和元年度 第1回学校評議員懇談会議事録

1. 期 日 令和元年6月5日(水)
2. 時 間 15:00~17:00
3. 会 場 長野高等学校校長室
4. 出席者 学校評議員4名  
小林哲夫氏(上松区区長)、高橋桂子氏(長野市PTA連合会副会長)  
中村正行氏(信州大学工学部教授) 藤井純子氏(東口メンタルクリニック臨床心理士)  
【アイウエオ順】

学校職員8名

5. 日 程 開会・学校評議員懇談会(I部) 15:00~15:25  
授業見学 15:25~16:00  
学校評議員会懇談会(II部) 16:00~17:00

6. 懇談会内容 (司会:内山 記録:中川)

(1) 学校長より:SGH事業の成果と今後の課題、班活動の報告、高校再編、高校入試改革、120周年事業、エアコン設置について など

(2) 自己紹介

(3) 学校より ①全日制の状況と課題について

1 学年:ノースマホデーの設定、学習面でのフォロー、生徒の見守りに力を入れて指導している。

2 学年:クラス替えにより心機一転新しいクラスでよいスタートが切れている。

3 学年:入学時の生徒が全員3年に進級した。生活実態調査で悩みがないと答える生徒の割合が多い。

②SGHの成果と今後の展望

5年前からのSGHを継承して行っている。時代に合わせて授業内容を変更しながら取り組んでいる。SDGs(持続可能な開発目標)・協働・国際的な対話力・キャリア・レイヤー的思考・ブレイクスルー状況を打破し、社会に貢献できる生徒に育てたい。

③定時制の状況と新たな取組み

全学年とても落ち着いており、学習にも前向きに取り組んでいる。学び直しから大学進学を目指す生徒までおり、学力差が大きいのが課題。今年度から新しい取組みとして、校外活動に力を入れている。

(4) 懇談(学校評議員の方からのご意見等)

○授業を見学したご意見・ご感想

委員:活き活き、自分の意見を言えていると感じた。

委員:自分で考える力をつけたほうがいい。自分で意見を言えているなど思ったが、なかなか意見を言えない子もいるのではないかと。どんな工夫をしているのか。ワークの仕方やしかけはどんなふうになっているのか。

学校：グループワークでは仕事を分担している。

学校：アイスブレイクや付箋に書いて貼るなど、全員が話しやすい工夫もしている。グループワークの工夫としては、人数設定や最初に共通の問いを投げかけるなど。ディスカッション講座を行っており、共通のマナーやルールを身につけている。今年の3年生は自分で考える習慣ができています。

委員：総合的な学習の時間はすべてNGPの時間なのか。

学校：基本的にそうである。

委員：環境教育やキャリア教育もすべて含めているのか。

学校：環境教育やキャリア教育はできるだけ含めるようにしている。

委員：ネットの情報の扱い、ITの知識、リテラシー教育の場はあるのか。高校生のうちから情報の扱いを学んでほしい。キャリアに応じて情報スキルを上げていかないといけない。

学校：本年度、東京海上の方に来ていただき、情報スキル養成講座を行った。

委員：どの学年も静かでおとなしい。集中して授業に取り組んでいる。休み時間はどのような行動をとっているのか気になる。グループ学習が定着している。フィールドワークに行くのであればバリエーションをつけて行ってほしい。

#### ○授業以外でお気づきの点について

委員：働き方改革と言われているが、先生方がボランティアでやっている部分はあるか。

学校：高校の教員で一番多い時間外勤務は部活である。生徒のことを考えると先生の働く時間が長くなってしまう。今後の課題である。業務のサイズダウン&クオリティーアップを検討している。

委員：北陸地方の高校へ行くと、長野県の高校よりはるかにきれいでお金がかかっている、生徒たちが集まってコミュニケーションをとれる場が設定されている。そんなスペースがあるとよいのではないか。コミュニケーションをとって仲間と活動する場、ピアコミュニケーションが大事ではないか。大学でもそのような場を作っている。NGPのコンソーシアムに同窓会が入っているが、OBOGの活用はどうか。活用を考えるとよいのではないか。

学校：法曹金鶏会には、依頼してある。

#### (5) 学校長より御礼の挨拶